様 式 Ｃ－７－１

平成２１年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 | 3 | 2 | 6 | 0 | 4 |　　2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研 究 種 目 名　基盤研究（C）　　4. 研究期間　平 成 ２１ 年 度 ～ 平 成 ２３ 年 度

5. 課 題 番 号 | 2 | 1 | 5 | 3 | 0 | 7 | 6 | 9 |

6. 研 究 課 題 名　生涯発達の観点からみた高齢者の記憶の信念の特徴

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 3 2 7 2 9 8	ﾌﾘｶﾞﾅ キンジョウ ヒカリ 金城 光	社会情報学部	准教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 2 0 2 1 1 2	ﾌﾘｶﾞﾅ シミズ ヒロユキ 清水 寛之	神戸学院大学・人文学部	教授
	ﾌﾘｶﾞﾅ		
	ﾌﾘｶﾞﾅ		
	ﾌﾘｶﾞﾅ		
	ﾌﾘｶﾞﾅ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。

1. 本研究の目的

高齢者の記憶の信念は、不正確な自己の記憶能力のモニタリングに関係があり、高齢者の記憶行動にマイナスの影響を与えている可能性が指摘されているが、詳しいことは明らかでない。そこで本研究では高齢者の記憶の信念について、1)日常的な記憶行動や記憶課題の成績との関係、2)認知に関する暗黙理論との関係、3)社会情報との関係、この 3 点から調査する。調査結果をふまえ、高齢者の記憶の信念に影響している要因や信念の特徴を若年層・中年層と比較することによって生涯発達の観点から総合的に考察し、その問題点を明らかにしたい。

2. 平成21年度の研究成果

平成 21 年度の目標は、平成 22 年度からの本格的な調査で用いる調査尺度・調査項目を洗い出し、予備データをとって、本調査に必要な調査項目を選定することであった。当初の予定通り、平成 21 年度は、①記憶の信念、②目常的な記憶行動、③認知の暗黙理論、④日常的な社会情報へのアクセスの実態、この 4 領域について代表的な質問紙や過去に行われた調査結果を調べ、その中から本研究の目的に合致した尺度や調査項目を選び、予備調査を行った。予備調査は、高齢者 32 名、中年層 26 名、若年層 38 名、計 96 名に対して行われ、現在データを分析している。これらの分析結果をもとに、平成 22 年度の調査項目の最終選定を行う。なお、今回の予備調査の結果の一部を 3 月のつくば国際記憶学会で発表した。

10. キーワード

(1) 記憶　(2) 信念　(3) 高齢者
(4) メタ認知　(5) 生涯発達　(6)
(7)　(8)

（裏面に続く）